

第120号

編集・発行

2019・3・26

社会福祉法人
三戸町社会福祉協議会

〒039-0132

三戸町大字在府小路町17

TEL:0179(22)0262

FAX:0179(23)4146

さんのへ

社協だより

住み慣れた地域で、だれもが安心して暮らせるような福祉社会をめざしてがんばります!!



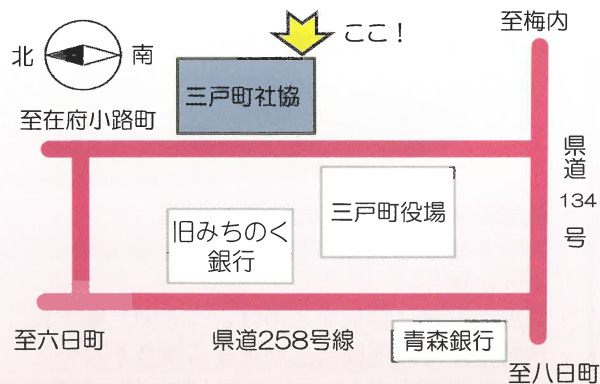
高齢者と子どもの交歓会 ジャンけんを使ったレクリエーションの様子 (H31.1.8 老人福祉センター)

■おもな内容

ページ

- 平成30年度地域福祉懇談会 2、3
- 高齢者と子どもの交歓会
三戸町ひまわりの会活動紹介
憩いの森あすもこっ活動紹介
ふれあい交流サロンの活動紹介 4
- 平成30年度社協会費実績報告 5
- 平成30年度赤い羽根共同募金実績報告 6
- 昔とった杵柄 シルバー健在 7
- 心配ごと相談所からのお知らせ
子どもが生まれた世帯へのお祝いについて 8

社会福祉法人 三戸町社会福祉協議会



この社協だよりは、県共同募金会からの配分金と社協会費を使わせていただいております。

平成30年度地域福祉懇談会

～地域の「いま」と「これから」について～

- ・ 老後への漠然とした不安を感じる。
- ・ 認知症になるのが不安。
- ・ 若い世代がおらず、高齢者だけの世帯が多い。
- ・ 地域に認知症と思われる人がいて、近所を徘徊している。
- ・ 高齢者世帯では回覧板を回すのが大変だから持ってこないで欲しいという家もある。言われたとおりには、必要な情報も伝わらなくなるので困っている。
- ・ 知人が認知症と思われ、なるべく会話をし、優しい言葉をかけるようにしているが、どう接したらいいか困っている。

高齢化や認知症について

- ・ ひとりで買い物に来た高齢者に物を売ったあとで、買った覚えがないと言われたり、家族などから今後は売らないで欲しいと言われることが増えてきた。
- ・ 昔は認知症の高齢者はいなかったように思う。家庭のなかで役割があったからかもしれない。
- ・ 認知症の高齢者を介護していると、一生懸命尽くしていても、本人は周囲に家族を悪く話す。報われない気持ちになるし、苦勞も多い。

- ・ 自動車の運転が危ない高齢者がいる。免許になるのは理解できるので、すれ違い時に対して周囲が配慮している。

交通に

- ・ バス停から遠い人はバス停まで歩くだけで
- ・ 自家用車に乗り合いで出かけられればいい側は責任を感じ、乗る側も遠慮がある。

- ・ 町内の行事への参加者が減った。義務感かせっかく参加しても行事後の懇親会などへ
- ・ 共働き世帯も多く、行事に協力するのが当わせて簡素化すべきところは簡素化してい
- ・ 老人クラブに加入しない人も多い。大半がたいという人が多く、地域への関心も薄い

価値観の多様

- ・ 顔見知り程度の関係性でも築いておくべきにも参加してもらいたい。
- ・ いまの30代や40代は昔よりも忙しいと思うがら、地域のことに興味を向けて欲しい。

- ・ 祖父母世代同士での近所づきあいはあるようだが、子や孫世代同士は顔も分らないことも多い。
- ・ 地域に学校があった頃は、学校行事を通じて地域にまとまりがあった。いまは地域ぐるみで何かをすることは無くなった。
- ・ 自営業のところは、閉業すると途端に地域との関わりが無くなる。
- ・ デイサービスに通っている人は朝から夕方まで自宅にはいないので、同じ地域の高齢者同士でも減多に会わない人も多い。
- ・ 外出は自家用車がほとんどで、人通りはまばら。そんな状態なので井戸端会議も廃れてきた。そういえば、あの人はどうしてるかなと思っても、用事もないのに家には行くのは遠慮がある。

近所づきあい、地域のつながり

- ・ 地域に一体感がなくなった。
- ・ 人手不足から神楽や神社の祭りが無くなって、地域のつながりが一層弱まったように思う。
- ・ 町内の行事に参加するのはいつも同じ顔ぶれ。
- ・ 秋祭りや町民運動会しか集まる機会がない。
- ・ 近所とは普段はほとんど交流はないが、大雪の時は重機で除雪を手伝ってくれる。
- ・ 定年退職で三戸に帰ってきたり、町外から嫁いで来た人のなかには地域に馴染めないでいる人もいる。地域の在り方が課題だ。

- ・ 老人クラブ行事が活発で
- ・ 次世代への引継ぎがされをしっかりと次世代に受け
- ・ 頼まれて近所の高齢者宅いた人だったので、互い

心がけて

- ・ 犬の散歩をしながらあい
- ・ 回覧板を回すときや、道ように心がけている。



平成30年10月から3ヶ月に渡り、町内21ヶ所で地域福祉懇談会を開催し、延べ170名の皆さんにご参加いただきました。懇談会では地域の課題や気にかかっていること、これからの地域に望むことなどについてたくさんのご意見をいただきました。

今回の社協だよりでは、地域福祉懇談会で話題に上がった様々な意見を紹介します。

この機会に皆さんが暮らす地域のことをもう一度考えてみてはどうでしょう。

を手放したら、買い物や通院が困難は道を譲るなど、高齢ドライバーに

ついて

一苦勞。
が、そういう文化はまだない。乗せ

ら参加しているだけの人も多く、
の参加率は低い。
たり前だった昔とは違う。時代に合
くべき。
80代で、70代は自分のペースで暮らし
ように見える。

化について

だと思うので、一度は町内会の行事
が、仕事と家庭のバランスを保ちな

夏は焼肉で交流を深めている。
ずに神楽が衰退したので、いまの行事
継いでいきたい。
の雪かきをしている。自身も心配して
にいい関係を築けている。

いることなど

さつを心がけている。
端で会ったときに話題を見つけて話す

- ・ 県外の息子に帰ってきて欲しい気持ちはあるが、三戸には仕事がない。彼らにも生活があるし、本人達が幸せならそれでいい。
- ・ 出会いの機会がなく、独身男性が増えてきた。
- ・ 年代を問わずあいさつをしない人が多い。

普段感じていることなど

- ・ 他人の世話になりたがらない人が多い。迷惑をかけたくない以前に、弱い所を見せたくないのか、甘え下手な人が多い。
- ・ 会合に出ない人に限って批判的。建設的でない人が多い。
- ・ 高齢者ばかりで三戸も終わりだと思う。仕方ない事だが寂しい。

- ・ 三戸の基幹産業は農業。移住者を得て、農業人口が増加して欲しい。
- ・ 昔と違って、ただ生きていだけなら社会から孤立していても生きていける。それではあまりに寂しいので、気軽に参加できる地域交流の機会がもっと増えればいい。
- ・ 声掛け、あいさつがもっと気軽にできる雰囲気づくりが必要。
- ・ ちょっと休める場所が欲しい。バス停に屋根をつけたり、ベンチをおくだけでも、そこが居場所になる。
- ・ 安心して結婚でき、子育てができる町になって欲しい。そのための出会いの機会を作って欲しい。
- ・ 子ども達に地域への関心、愛着を持たせる教育が必要。

これからの三戸に望むこと

- ・ 現状を変えるのは難しい。現実的にはどう維持していくか、問題を先送りしていくかという事を考えなければならない。
- ・ 小さい子供を遊びにつれていけるように、運動施設やレジャー施設が三戸にも欲しい。
- ・ 雪かきなどは個人の奉仕精神で行っているもの。表彰など、小さいながらも地域のために頑張っている人が報われるような仕組みが必要。

地域福祉懇談会を振り返って

どの会場でも頻繁に話題に挙がったのが、近所づきあいや地域のつながりに関することでした。地域によって差はあるものの、地域交流の希薄化が進んでいるのが現状と言えます。これは三戸に限ったことではなく、いまの日本全体が抱える課題であり、そこには社会の仕組みの変化や価値観の多様化など様々な要因があるのでしょう。地域のつながりが薄れつつあることに実感を持たない人や、自分の生活にはそれほど影響がないと考える人も増えているのかもしれませんが、地域の付き合いに煩わしさを感じる人もいます。地域のつながりの希薄化が進めば、災害時を例にするまでもなく、何らかの事情で日常生活に支障を来したときにも、身近な住民同士が助け合ったり、互いに力を合わせて対処するという互助・共助の機能が働きにくくなります。また人間関係が希薄であるということは、対人関係における許容度が低くなり、些細なことがトラブルの元になります。個人の価値観は尊重されなければなりません、それだけでは地域は成り立っていきません。少子化や高齢化のなかで、住民同士のつながりの大切さは一層増していくのではないのでしょうか。自分達が暮らす地域がこれからも安心して暮らせる地域であるように、いまいちど地域のあり方について考えてみてはいかがでしょうか。我々、社会福祉協議会も町民の皆様のご意見を参考にして、一層の地域福祉の充実に努めて参ります。

高齢者と子どもの交歓会

平成30年12月27日(木)に斗川児童館で、平成31年1月8日(火)に中央児童館で世代間の交流を目的に高齢者と子どもの交歓会を開催しました。

児童92名と地域の高齢者40名がレクリエーションで交流しました。



老人クラブ女性部手作りのカレーライスを囲んでの会食。レクリエーションを通じて緊張も解け、ほのぼのとした雰囲気の会食となりました。

憩いの森あすもこっ活動紹介

平成31年2月12日(火)、南部町のチェリウスで憩いの森あすもこっの新年会を開催し、食事やカラオケを楽しみました。

憩いの森あすもこっは、障がいのある人の自立を目的に、創作的活動や社会参加の機会を提供する施設です。

あすもこっ自慢のクッキーやマドレーヌは注文販売の他、各種イベント等でも購入できますので、是非一度手に取ってみてください。



カラオケを楽しむ参加者の様子

三戸町ひまわりの会活動紹介

平成31年1月28日(月)、三戸町ひまわりの会(在宅介護者の会)が岩手県二戸市の金田一温泉緑風荘で新年会を開催し、会員10名が参加しました。

当日は互いの近況や介護の状況など、話に花が咲き、束の間、忙しい介護から離れてリフレッシュした様子でした。

三戸町ひまわりの会では随時会員を募集しています。介護をしている人同士だから話せることもあると思います。入会を希望される方は社協までご連絡ください。



緑風荘の前で記念写真

ふれあい交流サロンの活動紹介

平成31年2月26日(火)、ふれあいサロンあんべでひな祭り交流会を行い、手料理や持ち寄った果物、手づくりのせんべい汁を囲んで楽しめました。

ふれあいサロンあんべは毎週火曜日午後1時30分から勤労青少年ホームの1階で開催しています。どなたでも申し込み不要で参加できますので、是非お越しください。



美味しい食事に舌鼓を打つ参加者の様子

平成30年度 社協会費実績報告

平成30年7月から町民の皆様にご協力をいただきました平成30年度社協会費につきまして、町内全地区から納入いただきましたので、納入実績をご報告いたします。

総 額 / 件 数		3,316,000 円	3,091 件
内 訳	一 般 / 一口 1,000 円	2,983,000 円	3,006 件
	団 体 / 一口 3,000 円	138,000 円	46 件
	賛 助 / 一口 5,000 円	195,000 円	39 件
対 昨 年 度 比		- 50,300 円	+5 件

※一般会費については、任意の金額を納入された方がいるため、金額と件数は必ずしも一致しません。

地区別内訳

No.	地区名	件数	金額	No.	地区名	件数	金額	No.	地区名	件数	金額
1	上同心町第1	51	51,000	30	元木平	237	234,500	59	豊川	43	43,000
2	上同心町第2	83	81,000	31	中崎	3	3,000	60	久保	23	23,000
3	上同心町第3	109	109,000	32	箸木山	34	33,000	61	久保川原	8	8,000
4	境沢	21	21,000	33	細谷	66	66,000	62	大谷地	14	14,000
5	同心町第1	55	55,000	34	館	32	32,000	63	団子坂	12	12,000
6	同心町第2	61	61,000	35	遠藤	17	17,000	64	大舌	19	19,000
7	上八日町	34	34,000	36	小中島	12	12,000	65	乗上	7	7,000
8	下八日町	26	26,000	37	留ヶ崎	15	15,000	66	川代	21	21,000
9	上在府小路町	31	31,000	38	上目時	40	40,000	67	文治屋敷	13	13,000
10	桐蔭第1	31	28,500	39	沼尻	9	9,000	68	袴田	22	22,000
11	桐蔭第2	48	48,000	40	下目時	78	78,000	69	一ノ渡	9	9,000
12	桐蔭第3	74	74,000	41	泉山	54	54,000	70	田ノ沢	4	4,000
13	桐蔭第4	78	78,000	42	栄町	37	32,500	71	下田第1	12	12,000
14	桐蔭第5	71	71,000	43	沼ノ久保	16	16,000	72	下田第2	24	24,000
15	竹林	4	4,000	44	下本村	48	48,000	73	貝守	35	35,000
16	雷平第1	26	26,000	45	中本村	29	29,000	74	中村	25	25,000
17	雷平第2	41	40,500	46	上本村	35	34,000	75	大平	24	24,000
18	雷平第3	31	31,000	47	野月	18	18,000	76	老久保	16	16,000
19	下在府小路町	48	47,000	48	樺ノ木	13	13,000	77	杉沢	18	18,000
20	上二日町	29	29,000	49	松山	15	15,000	78	二五山	9	9,000
21	下二日町	41	41,000	50	高間館	20	20,000	79	泉	9	9,000
22	関根川原	43	43,000	51	中堤	25	25,000	80	葛子平	12	12,000
23	六日町第1	76	75,000	52	茨沢	3	3,000	81	下川原	11	11,000
24	六日町第2	32	32,000	53	武士沢	21	21,000	82	蛇沼本村	15	15,000
25	六日町第3	143	143,000	54	沢田	28	28,000	83	蛇沼大平	7	7,000
26	松原	109	108,500	55	北向	16	16,000	84	横沢	8	8,000
27	雇用促進住宅	15	14,500	56	久保団地	22	22,000	85	清座久保	16	16,000
28	久川第1	77	77,000	57	別当沢	7	7,000	86	団体会員計	46	138,000
29	久川第2	106	103,000	58	玉ノ木	23	23,000	87	賛助会員計	39	195,000

皆様から頂いた社協会費は地域福祉活動のために活用させていただきます。ご協力ありがとうございました。

平成30年度 赤い羽根共同募金実績報告

平成30年10月から町民の皆様にご協力をいただきました平成30年度赤い羽根共同募金の寄附金実績をご報告いたします。

総額 / 件数	2,703,590 円	2,954 件
対昨年度比	+37,377 円	+4 件

地区別内訳

No.	地区名	件数	金額	No.	地区名	件数	金額	No.	地区名	件数	金額
1	上同心町第1	50	45,200	30	元木平	237	196,900	59	豊川	43	42,500
2	上同心町第2	80	64,500	31	中崎	3	3,000	60	久保	22	22,000
3	上同心町第3	108	93,300	32	箸木山	27	18,500	61	久保川原	8	8,000
4	境沢	22	22,000	33	細谷	65	50,500	62	大谷地	13	13,000
5	同心町第1	59	48,900	34	館	32	33,000	63	団子坂	12	12,000
6	同心町第2	57	42,600	35	遠藤	17	17,000	64	大舌	20	19,500
7	上八日町	34	32,000	36	小中島	12	12,000	65	乗上	7	7,000
8	下八日町	35	34,500	37	留ヶ崎	14	14,000	66	川代	20	20,000
9	上在府小路町	32	30,000	38	上目時	40	40,000	67	文治屋敷	13	13,000
10	桐萩第1	28	22,500	39	沼尻第1	9	5,300	68	袴田	22	22,000
11	桐萩第2	45	42,000	40	下目時	76	74,300	69	一ノ渡	10	10,000
12	桐萩第3	70	68,500	41	泉山	54	54,000	70	田ノ沢	4	4,000
13	桐萩第4	76	68,500	42	栄町	37	31,000	71	下田第1	12	12,000
14	桐萩第5	71	67,500	43	沼ノ久保	16	16,000	72	下田第2	24	24,000
15	竹林	4	4,000	44	下本村	47	46,500	73	貝守	35	35,000
16	雷平第1	30	25,200	45	中本村	29	22,500	74	中村	24	24,000
17	雷平第2	41	38,400	46	上本村	35	32,000	75	大平	22	22,000
18	雷平第3	31	25,500	47	野月	19	18,500	76	老久保	16	16,000
19	下在府小路町	48	46,100	48	栴ノ木	13	13,000	77	杉沢	19	19,000
20	上二日町	34	32,500	49	松山	16	15,000	78	二五山	8	8,000
21	下二日町	42	38,500	50	高間館	20	20,000	79	泉	9	9,000
22	関根川原	35	28,300	51	中堤	24	24,000	80	葛子平	13	13,000
23	六日町第1	75	70,300	52	茨沢	3	3,000	81	下川原	11	11,000
24	六日町第2	30	30,000	53	武士沢	21	21,000	82	蛇沼本村	15	15,000
25	六日町第3	143	133,600	54	沢田	29	27,500	83	蛇沼大平	7	7,000
26	松原	96	79,500	55	北向	16	16,000	84	横沢	8	8,000
27	雇用促進住宅	13	6,200	56	久保団地	20	20,000	85	清座久保	16	16,000
28	久川第1	68	57,000	57	別当沢	7	7,000		募金箱		21,790
29	久川第2	103	78,200	58	玉ノ木	23	23,000				

皆様から寄せられた寄附金は、青森県共同募金会を通じて、三戸町の地域福祉活動及び県内、日本全国の福祉向上のために活用されます。ご協力ありがとうございました。

じぶんの町を良くするしくみ。

赤い羽根共同募金



昔とった杵柄

シルバー健在



綿帽子をかぶった関根の松とお庭の前で

イチノヘツグオ
一戸胤夫 さんの巻

昭和六年三月七日生まれ 八十八歳

今回のシルバー健在は、

小中学校の校長先生や町の教育長などの要職を歴任し、三戸の教育の発展に尽くした一戸胤夫さんを紹介します。

一戸さんは元禄年間から続く盛岡藩士一戸家の長男として昭和六年に三戸町で生を受けます。

当時としては珍しく、父の武夫さん、母の春枝さんは共に学校の先生。ご両親の影響から自らも教職を志したことに間違いはないようですが、「両

親を見ていると、教師というのは休みは多いし、帰日も早い、これはいい仕事だなと思った」と一戸さん。少なくとも当時の一戸少年の目にはそう映ったのでした。

少年時代は、長期休暇の度に母春枝さんの故郷札幌へ。

教育者であった母方の祖父に連れられ市内からほど近い藻岩山に登り、そこでアイヌ民族の文化を学んだと言います。

そうした日々にあっても、徐々に高まる戦争の気配を一戸さんもまた感じていたのです。昭和十六年、一戸さん十歳のこの年太平洋戦争が開戦します。

戦中を振り返り、「八戸中学時代は高館飛行場で勤労奉仕にあたった。飛行場までは隊列を組んで歩かなければならなかったし、通学時にも馬糞やスコップを担いで通ったものだ」と話しておられました。

また、「そんな状況でも学校のテストはあったんだよ」と苦笑いする一方で「自分が十四歳のときに終戦を迎えたが、ひとつ上の学年は戦争に行っていたらどうなっていたか」とも話してくださいました。

昭和三十年、社会科教諭として三戸中学校に赴任。この頃のお話を聞くと笑いながら「最初の三年間は地獄だったよ。当時の山下校長先生に歓迎会で前はクビだと九回も言われたんだよ」と一戸さん。

この山下校長先生との出会いが札幌の祖父の口癖で、「一戸さんの胸の奥にあった「人生は死ぬまで勉強だ」という想いに火をつけ、教育者としての在り方に大きな影響を与えます。

毎夜遅くまで本を読み、前日のうちに授業の板書を済ませておく、そうした授業のスタイルが徐々に確立していくのですが、全く苦ではなかったそうです。

その言葉の通り、「子供が小さい頃、夜間は主人が子供の面倒を見てくれた。当時専業主婦だった私に優しい言葉をかけ、どうせ起きているのだからと嫌な顔ひとつせず子育てに協力してくれる人だった」と話すのは妻の恵子さん。いまでこそ一般的ですが、昭和三十年代にもイクメンがいたとは驚きです。

三戸中学校で十年教鞭をとった後、上北教育事務所、三八教育事務所を経て、四十五歳のとき蛇沼小学校に校長として赴任。在任中、蛇沼小学校が百周年を迎えるにあたり、なんとか地域を盛り上げたいと、地域の方と毎晩のように自宅で話し合い、知恵を出し合い、失われていた蛇沼大黒舞を復興させたのです。

また児童に学ぶことの楽しさを伝えたいと全国各地から著名な研究者を招いての講義を企画。なかでも宮城教育大の教授とゼミの学生が児童と共に行った農地の調査は蛇沼小創立百三十周年の記念誌にも掲載されました。

この記念誌は三戸町立図書館でも見ることが出来ます。

そして昭和六十二年、教師としてのキャリアの始まりとなった三戸中学校に校長として赴任します。いまの三戸中学校に何

ができるのかという当時の心境を太宰治になぞらえて、「恍惚と不安」であったと語っておられました。

三戸中学校では前任の伊藤校長先生の思いを引き継ぎ、地域やPTAの協力を得て、外から三戸を見るための海外研修、自分達の足元を見るための秋祭りでの山車運行を作り上げたのでした。

退職後は教育長として、町の教育の発展に尽力し、また社会福祉法人仁正会の理事長（現在は名誉理事長）として福祉の発展にも尽力されました。

八十八歳を迎えられた今でも、「学ぶことが楽しくて仕方がない、息抜きは庭の草取りだが、草取りから学ぶこともあるんだよな」と笑顔。

人生は死ぬまで勉強、見習いたいものです。

一戸胤夫さんは、社協だよりを発行する前にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

心配ごと相談所からのお知らせ

平成31年度は下記の日程で心配ごと相談所を開設いたします。またこれ以外の日程でも個別相談を受け付けておりますので、ご希望される方は社協までご相談ください。

 24日(水)	 29日(水)	 26日(水)
 31日(水)	 28日(水)	 25日(水)
 30日(水)	 27日(水)	 25日(水)
 29日(水)	 26日(水)	 25日(水)

■場所 三戸町総合福祉センター ふくじゅそう3階小会議室3 ■時間 午後1時～午後3時

4月1日以降に子どもが生まれた世帯に 紙おむつ等購入費用の助成をします

社会福祉協議会では、お子さんの誕生をお祝いし、乳児用紙おむつ等の購入費用の助成を行います。

ご希望の方は必要書類を添えて、三戸町社会福祉協議会までお申込みください。

申請用紙は三戸町社会福祉協議会及び三戸町役場住民福祉課で受け取れます。

【助成額】 乳児1人につき上限5,000円(助成は子ども1人につき1回)

【対象】 三戸町に住所を有し、2019年4月1日から
2020年3月31日までに生まれた乳児がいる
世帯(申請は生後6ヶ月以内)

【申請方法】 申請用紙に必要事項を記入のうえ、
三戸町社会福祉協議会に持参または郵送にて
申請してください。



●お問い合わせ 三戸町社会福祉協議会まで TEL.22-0262